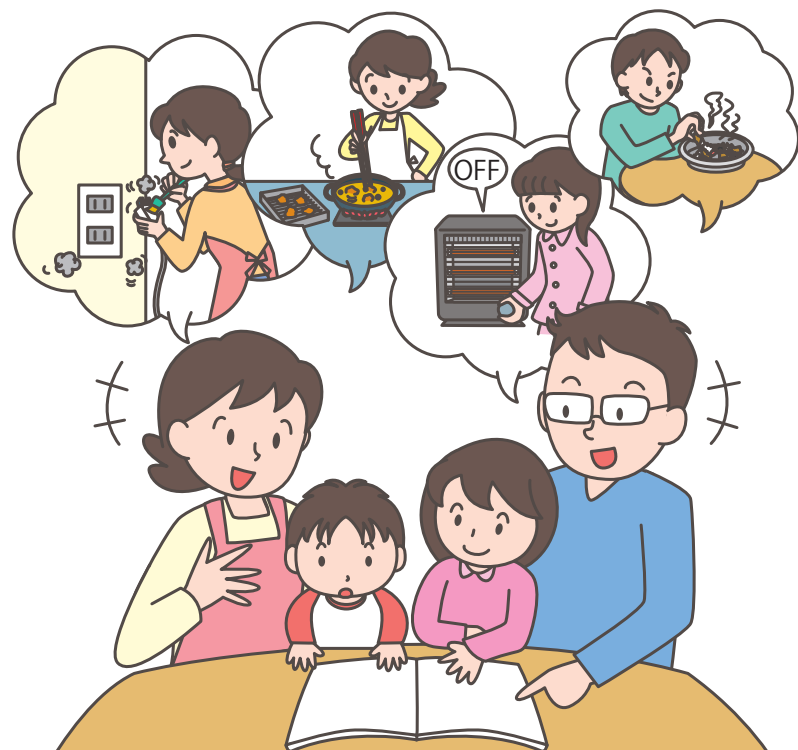


4訂版

火災から命を守る

住宅防火読本



はじめに

「火災から命を守る 住宅防火読本」は、住宅における総合的な火災安全対策を分かりやすく編集したもので、平成 29 年に初版の刊行以来、多くの皆さまにご愛読いただき、今回の改訂版を迎えることができました。

特に、住宅の防火対策に関し当冊子では住宅用火災警報器や住宅防火の注意点等について、分かりやすく説明を加えています。

今回の改訂は、住宅用火災警報器についてより詳しく解説するとともに火災に関するデータの更新や最新事例の掲載を中心に行っています。

住宅用火災警報器の全国の設置率は、令和 7 年 6 月 1 日現在で 84.9% となっていますが、電池切れや性能・機能の低下により更新の時期を迎えているものが見受けられるようになってきています。

特に、住宅用火災警報器の更新の時期に留意していただくとともに、当冊子を活用していただき、住宅用火災警報器の機能を適正に維持するための点検とメンテナンスに、ご留意いただければと思います。

また、近年電気器具を原因とする火災の発生件数が増加傾向にあります。身の回りの電化製品は便利である一方、使い方を誤ると重大な事故につながるおそれがありますので、この住宅防火読本を日頃からご活用いただき、住宅防火対策のさらなる充実と、火災発生の防止や被害の軽減にお役立ていただければ幸いです。

令和 7 年 10 月

目次

第1章 火災の実態

- 住宅火災の実態を知ろう！・・・2
- 原因別にみる！火災の危険・・・4
- こんろによる火災の対策・・・6
- 電気器具による火災の対策・・・8
- たばこによる火災の対策・・・10
- ストーブによる火災の対策・・・12
- 放火による火災の対策・・・14

第2章 火災を防ぐために

- 火災を防ぐためにはこんな防火・防災製品があります！・・・16
- 知らせる！住宅用火災警報器は命を守る・・・18
- 今、備えよう。大規模地震時における電気火災対策・・・22

第3章 火災が起きたら

- 住宅用火災警報器が鳴ったら・・・24
- 消火するか・・・26
- 火を消すことができたら・・・27
- 周りに知らせよう・・・28
- 避難しよう・・・29
- 消防に通報する・・・30

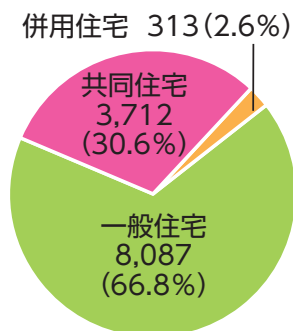
資料

- 日頃から家族で話し合っておきましょう・・・31

住宅火災の実態を知ろう！



1日約33件、約43分に1件
誰かの家で火の手が上がる！



(令和5年中。放火を含む)
出典：令和6年度 消防白書
(消防庁)第1-1-17図より

住宅火災は財産だけでなく、自分や家族の命、ご近所の方の安全をも危険にさらす恐ろしいものです。

住宅火災の件数（放火を含む）は、全国で年間12,112件（「令和6年度 消防白書」（消防庁））。1日に換算すると約33件、約43分に1件、火の手が上がっています。**火災の危険は想像以上に身近なところにあるのです。**

1年間の住宅火災件数



(令和5年中。放火を含む)

出典：令和6年度 消防白書 (消防庁)



早期発見を心がけて適切な行動を！

住宅火災から大切な家族を守るためには、いくつかの対策が考えられます。まず、一番大切なのは、火災を早く見つけること！そして、初期の段階で適切な行動をとることです。そのために必要な知識と防火・防災機器について知っておきましょう。

火事だー

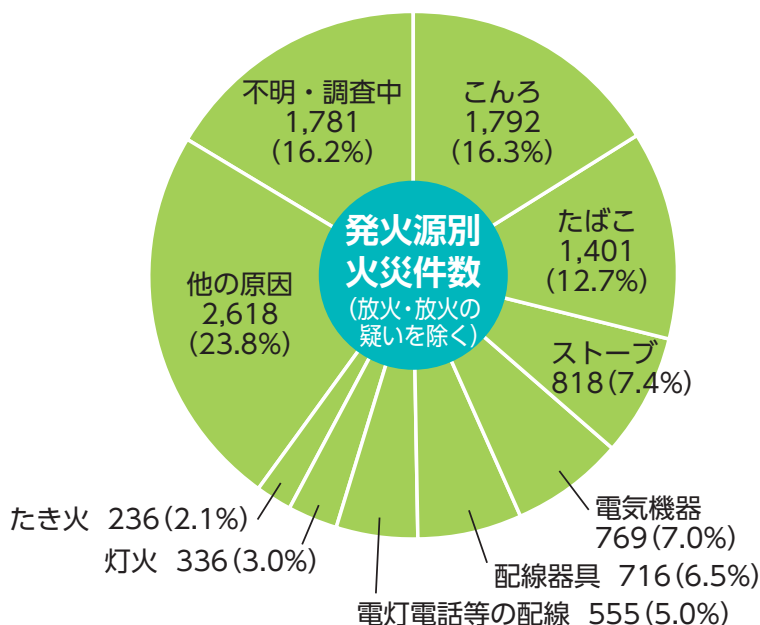


原因別に見る！火災の危険

ここでは、住宅火災の原因と死者数について説明します。

住宅火災の“発火源”は？

発火源別火災件数の比率の第1位は「**こんろ**」、
第2位は「**たばこ**」、第3位は「**ストーブ**」

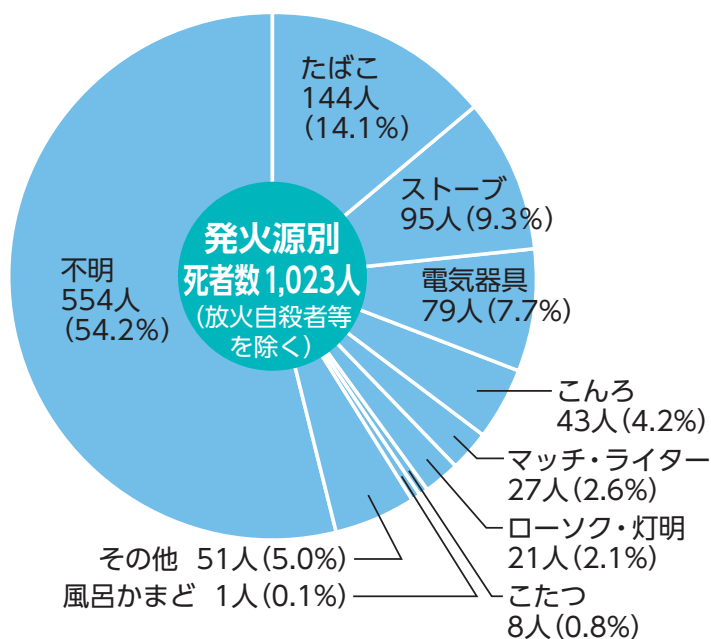


出典：令和5年(1～12月)における
火災の状況(確定値)について
(消防庁)

住宅火災の発火源別死者数は？

発火源別死者数の第1位は「たばこ」、
第2位は「ストーブ」、第3位は「電気器具」

(令和5年中)



出典：令和6年度 消防白書
(消防庁)第1-1-11図より

こんろによる火災の対策

ここでは火災原因の一つ、「こんろによる火災」について説明します。

こんろによる火災を知ろう！



**調理中は絶対に目を離さない、
離れるときは必ず火を消すこと！！**

注意点と予防方法

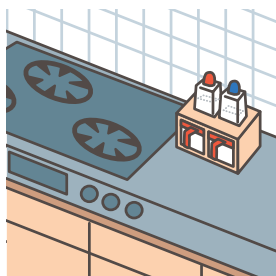
①着衣着火に注意！

着衣着火とは、こんろの火が衣服に燃え移ることです。袖口などは特に注意をはらいましょう。防災品であるアームカバーなどを着用すると安心です。



②こんろの周りに物は置かない！

こんろの近くに置いていた布巾に、火が燃え移ってしまうこともあります。こんろの周りには物を置かないようにしましょう。



コラム

地震が起きたときは

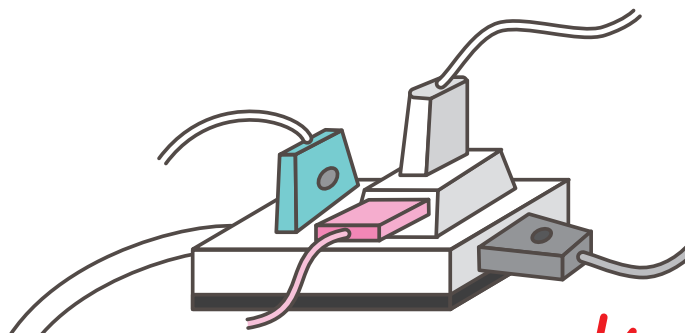
地震発生後はまず身の安全を確保し、揺れがおさまったら火を消すようにしましょう。



電気器具による火災の対策

ここでは火災原因の一つ、「電気器具による火災」について説明します。

電気器具による火災を知ろう！



電気器具の発熱注意

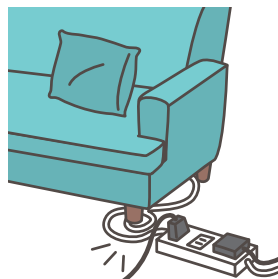
見えないところで発火することもある

注意点と予防方法

①コード類の取扱いに注意！

許容電流を超えることで発熱・発火するたこ足配線は、火災原因の一つです。電気器具等の同時使用に気をつけましょう。

また、コードの上に重いものを乗せると配線に負荷がかかってショートすることもあるので、気をつけましょう。



②トラッキング現象に注意！

コンセントと電源プラグの間にほこり等がたまり湿気が加わると、それが導線になり電気が流れます。やがてそこから発火するのが「トラッキング現象」です。コンセントの周りはこまめに掃除をして、ほこりをためないようにしましょう。



③モバイルバッテリー等の取扱いに注意！

落下、浸水したモバイルバッテリーを使用して火災になった事例があります。

廃棄する場合は、必ずお住まいの地域のルールに従い廃棄しましょう。誤った方法で捨てられたモバイルバッテリーのリチウムイオン蓄電池が原因で、ゴミ収集車や焼却施設が火災になった事例もあります。



コラム

非純正の充電器による火災事例

非純正品の充電器を使用してカメラのバッテリーを充電したことにより、バッテリーパックから出火した。

メーカーが指定した、国の技術基準に適合した「PSE マーク」が表示されている製品の使用が推奨される。



たばこによる火災の対策

ここでは火災原因の一つ、「たばこによる火災」について説明します。

たばこによる火災を知ろう！



**長い時間をかけて火災になる
たばこによる火災の怖さ**

注意点と予防方法

①寝たばこは絶対にしない！

たばこの火がついた布団は、炎を上げないでゆっくりと燃焼を続け、空気の流入などの条件がそろえば、炎を上げて燃え始めます。布団などの近くでは、たばこを吸わないようにしましょう。



②たばこの火は必ず消すこと！

たばこの火は必ず消しましょう。吸い殻は必ず灰皿に入れ、火が消えていることを確認しましょう。

また、家の中で喫煙場所を決めておくことも、たばこによる火災を未然に防ぐ基本的な方法です。



事例

たばこによる火災事例

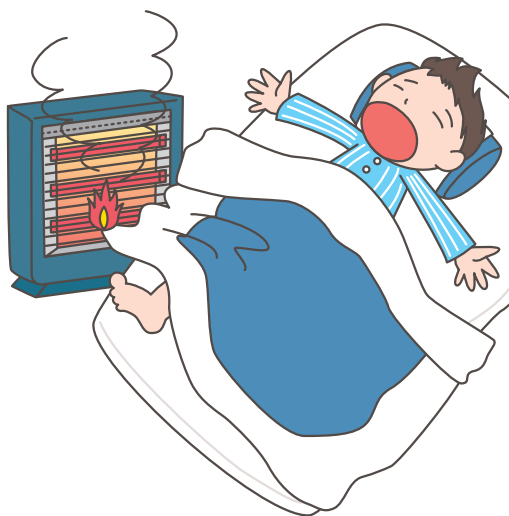
居住者が喫煙をした際に、たばこの火種が布団の上に落下した。その後無炎燃焼が続き、数時間後に出火した。



ストーブによる火災の対策

ここでは火災原因の一つ、「ストーブによる火災」について説明します。

ストーブによる火災を知ろう！



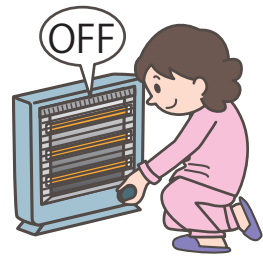
ストーブの周りは**常に警戒**、
離れるときは必ず**火を消す**こと！！

注意点と予防方法

ストーブ火災による死者数の内訳を種類に着目してみると、電気ストーブと石油ストーブはそれぞれほぼ半数を占めています。

①就寝前は必ず電源をオフに！

電気ストーブの場合にも十分に注意が必要です。就寝前は油断せず、必ず電源をオフにする習慣をつけましょう。

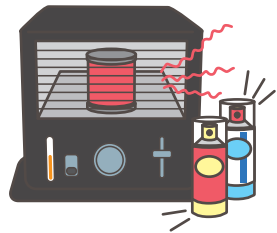


②給油・移動は特に注意を！

石油ストーブの場合、火をつけたままの給油や、持ち運びは絶対にしてはいけません。

③ストーブの周りを警戒！

スプレー缶など破裂の可能性があるものや、洗濯物や布団などの燃えやすいものは近くに置かないようにしましょう。



コラム

電気ストーブによる火災事例

居住者が座っていたソファがずれて動いたため、電気ストーブに接触。その後、ソファから出火した。



放火による火災の対策

ここでは火災原因の一つ、「放火による火災」について説明します。

放火による火災を知ろう！



『放火されない』、『放火させない』、
『拡大させない』

注意点と予防方法

①燃えやすいものは放置しない！

古紙や段ボールなどを屋外に出しておくと、放火されやすくなります。ごみ出しの日まで、室内で保管しましょう。



②暗がりをつくらない！

暗い場所は人目につかないため、格好の放火場所になってしまいます。照明などをつけ明るくすることで、放火されにくい環境をつくりましょう。



事例

放火による火災事例

深夜、路上に置かれていた自転車が何者かに放火された。

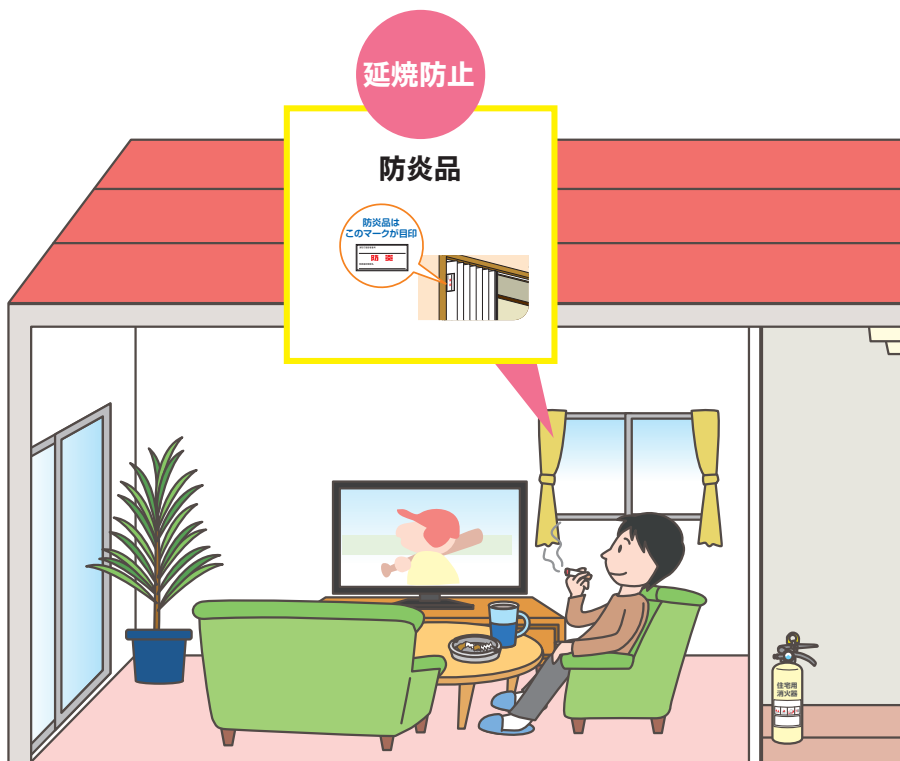


火災を防ぐためにはこんな防火・防災

延焼防止

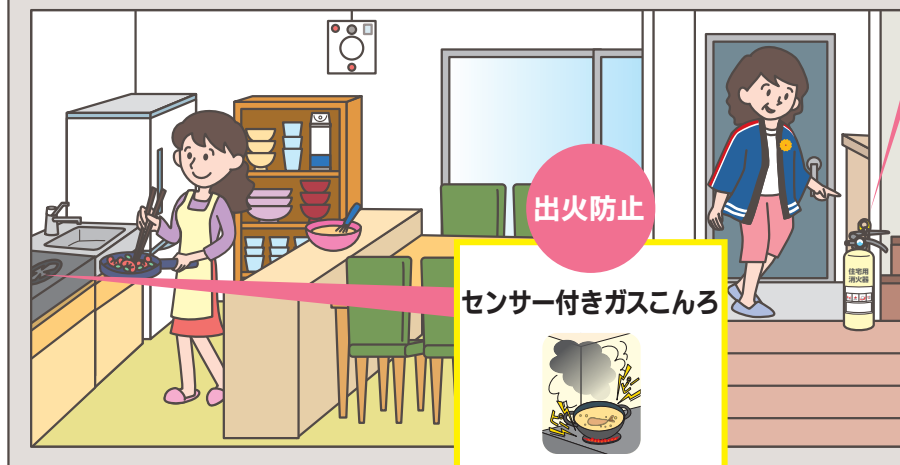
防災品

防災品は
このマークが目印



出火防止

センサー付きガスこんろ



製品があります！

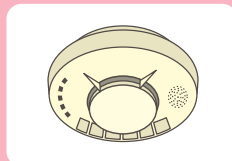
初期消火

住宅用消火器



早期発見

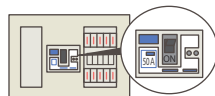
住宅用火災警報器



詳しくは⇒ P.18 ~ 21

出火防止

感震ブレーカー



詳しくは⇒ P.22 ~ 23

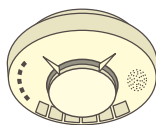
知らせる！住宅用火災警報器は命を

▶住宅用火災警報器とは…

煙や熱を感知して火災の発生を知らせます。現在市販されているものは「煙式」と「熱式」があります。そのほかに、ガス漏れや一酸化炭素も検知できる機能を兼ね備えた住宅用火災警報器もあります。

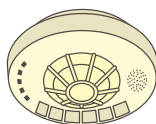
●煙式

煙を感知して火災と判断します。熱式よりも火災を早く感知することができます。



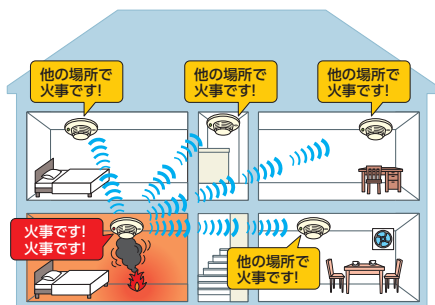
●熱式

熱を感知して火災と判断します。台所や車庫等、煙が発生しやすい場所は煙式より熱式の設置がお勧めです。



●連動型住宅用火災警報器

一つの住宅用火災警報器が火災を感知すると他のすべての警報器が鳴ります。無人の場所で出火した場合でも他の場所で警報音を発しますので、早期発見に効果的です。



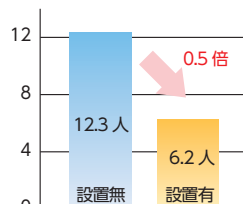
連動型住宅用火災警報器が感知

コラム

住宅用火災警報器の効果

火災発生時において、住宅用火災警報器を設置している場合は、設置していない場合と比べ、死者数が約5割に減っています。住宅用火災警報器の設置が、火災発生時に有効であることが分かります。

(人／火災100件)



<住宅火災100件当たりの死者数>
(消防庁HP「住宅防火関係」より)

守る

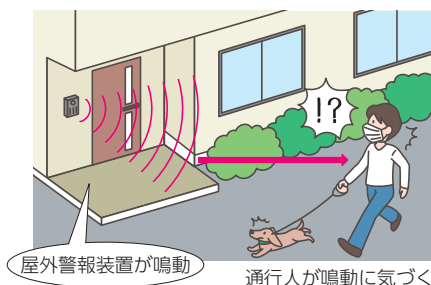
●補助警報装置

住宅用火災警報器と連動して音や光を発するもので、高齢者の方、目や耳の不自由な方も火災を察知しやすくなります。



●屋外警報装置

連動型住宅用火災警報器が火災時に発する無線信号を受信し、屋外で火災警報を発する装置です。



(((購入方法等について)))

設置方法

●新築、改装を計画されている場合

住宅メーカー、工務店にお問い合わせください。

●自分で取り付ける場合

お近くの量販店や電気店等にお問い合わせください。

このほか住宅用火災警報器に関する質問は「住宅用火災警報器相談室（一般社団法人日本火災報知器工業会）」でも受け付けています。

⇒ フリーダイヤル 0120-565-911

購入方法

- ・購入する際には、お近くの量販店や電気店等にお問い合わせください。

なお、消防署が販売することはありません。

- ・量販店等で購入する場合は、住宅用火災警報器の品質を保証する検定の合格表示が付いているものを設置しましょう。

合格表示
(検定マーク)



知らせる！住宅用火災警報器は命を

▶ 日頃から点検・メンテナンスをしよう

住宅用火災警報器は長く取り付けられている間に感知部分にほこりが付いたり、台所に設置してある場合は油や煙で汚れて、火災を感知しにくくなることがあります。いざというときに効果を発揮するためにも、お手元の取扱説明書で点検について確認し、日頃から定期的な点検（1か月に1回程度）・メンテナンスをしましょう。

● 定期的に点検しましょう

住宅用火災警報器から下がっているひもを引く、又はボタンを押すなどして作動試験を行います。

● メンテナンス

ほこり、小さな虫などは誤作動の原因にもなるので取り除き、年に一度家庭用の中性洗剤などに浸し、固く絞った布で軽くふき取ってください。

※ベンジン、シンナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。

※故障の原因になるため水洗いはしないでください。

※高所での作業は、安全に気をつけましょう。



● 交換の時期

設置から **10 年** 以上が経過すると、電池の寿命や本体内部の電子部品の劣化などで不具合が発生しやすくなります。そのため、交換の目安を設置後 10 年とし、本体の交換をお勧めしています。

※電池切れの場合、電池交換で正常に作動し始めますが、本体の経年劣化により故障しやすくなっていますので、本体の交換をお勧めしています。

● 廃棄方法

- ・住宅用火災警報器や電池を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従って廃棄してください。
- ・廃棄するときは、住宅用火災警報器本体から電池を外すこともお忘れなく。

奏功事例 ①

共同住宅の一室で寝ていた居住者が、住宅用火災警報器の警報音とともに焦げた臭いで目を覚ました。周囲を確認したところ、敷布団から火が出ており、洗面器で水をかけたが消火できなかった。その後、別の発見者が通報し、駆け付けた消防隊が消火活動を実施。大事には至らなかった。

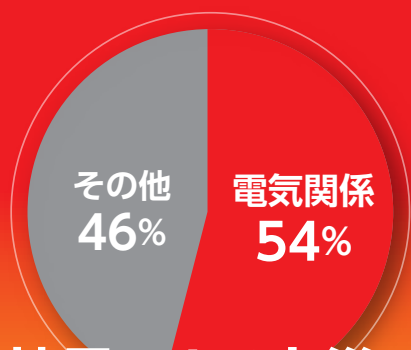


奏功事例 ②

居住者が1階の台所でてんぷら油を加熱したまま、その場を離れた。その結果、鍋から出火し、台所に設置されていた連動型住宅用火災警報器が鳴動。2階にいた家族が警報音に気づき、台所で火災を発見。備え付けの住宅用消火器で火を消し止め、被害を最小限にとどめることができた。



今、備えよう。大規模地震時における



地震による火災の過半数は電気が原因です。



過去の大地震では建物の倒壊だけでなく、火災の被害が多く発生しています。東日本大震災による火災では、上のグラフのとおり、原因の特定されたもののうち過半数は電気に起因したものでした。

電気火災対策には感震ブレーカーが効果的です。

<認証マーク・推奨マーク>



感震ブレーカーは震度5強相当の地震を感知して、電気を自動で遮断します。感震ブレーカーには分電盤タイプ（内蔵型）、分電盤タイプ（後付型）、コンセントタイプ、簡易タイプがあります。

電気火災対策

分電盤タイプ〈内蔵型〉

分電盤に感震遮断機能が内蔵されています。地震が発生し、大きな揺れを感じると、ブザー音になります。設置には電気工事が必要です。



分電盤タイプ〈後付型〉

既設の分電盤に後から設置できる後付型です。設置には電気工事が必要となります。



コンセントタイプ

内蔵されたセンサーが地震を検知するとコンセントからの電気を遮断します。特に出火の危険性の高い電熱器具が接続されているコンセントを中心に設置すると効果的です。



簡易タイプ

地震の振動で主幹ブレーカーをOFFに切り替えます。パネで動作するものや、おもりで動作するもの等があります。



住宅用火災警報器が鳴ったら…

まずは、落ち着いて火災かどうかを確認！



スタート！

火元の確認

どこの住宅用火災警報器が
鳴ったか？
火災が発生？

火災

消火するか？

▶▶▶ 26 頁へ

する

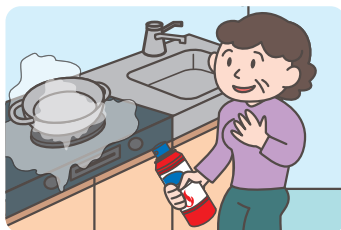
周りに知らせながら

▶▶▶ 28 頁へ

住宅用消火器等で
火を消す

できた

消火



火災が発生？まずすることは？

このフローチャートに沿って行動しましょう。

火災ではない

火災ではなく、
住宅用火災警報器が
鳴る場合もあります

しない

できない



周りに知らせながら

▶▶▶28 頁へ

避難する

▶▶▶29 頁へ

消防に通報する

▶▶▶30 頁へ

消火するか

▶ 消火の判断は？

住宅用火災警報器が鳴った段階では、どの部屋でどのくらいの大きさの火災が発生しているか、はっきりとは分かりません。そのため、まずは現状を確認することが大切です。以下のポイントに留意して、消火・避難の判断ができるようにしておきましょう。

▶ 消火する、しないの判断は？

消火する

- ✓ 火元が確認できる（視界がきく）。
- ✓ 炎が天井や自分の背丈よりも小さい。

消火しない

- ✓ 火元が確認できない（煙の充満等で視界がきかない）。
- ✓ 炎が天井に届いていたり、自分の背丈よりも大きい。

▶ 消火するときは！

● 落ち着いて安全確認を

避難する方向、経路など周囲を確認しましょう。

● 住宅用消火器は確実に操作しましょう

火元を狙って放射しましょう。

● 以下の場合、速やかに逃げる判断をしましょう

- ・ 住宅用消火器の消火剤がなくなった。
- ・ 炎が天井まで届いてしまった。
- ・ 消火できなかった。

コラム

防災訓練等に積極的に参加しよう

実際に火事を目の前にすると慌ててパニックを起こしてしまうものです。日頃から自治体等で行われている防災訓練に積極的に参加し、いざというときは訓練を思い出して行動しましょう。

火を消すことができれば



火が消えたら、 チェックすること

- ☒ 完全に火が消えたか確認する。
- ☒ ガスを使用していたら元栓を閉める。
- ☒ 電気製品から出火した場合は感電に気をつけて
 - ・ブレーカーを落とす。
 - ・コンセントから電源プラグを抜く。
- ☒ 119 番通報する。



ワラム

やけどを負ってしまったら？

応急処置として、速やかにやけどした箇所とその周辺を水で冷やしてください。着衣が燃えてやけどした場合は衣服を無理に脱がさず、そのまま冷やしましょう。



周りに知らせよう

▶ 大声で周りに知らせる

火災を周りに知らせるときには「**火事だー**」と大声で叫んでください。火災による被害を最小限にするためには、周りに知らせることが必要です。

● 家の中に家族がいる場合

家族に知らせ、協力して消防への通報や消火などを行いましょう。

● 一人暮らしの場合

隣近所の住民に知らせましょう。通報や消火の協力を依頼しましょう。

コラム

避難路の確保を

特に高齢者が就寝する部屋は避難しやすい場所を選びましょう。



避難しよう

▶ 避難すると判断したら

避難のポイント



- ☒ 持ち物などにこだわらず、身の安全が第一です。
- ☒ 一度逃げたら絶対に戻らないようにしましょう。
- ☒ 子どもや高齢者、身体に障がいのある方がいる場合は、避難を優先させましょう。
- ☒ 火元から離れるように逃げましょう。
- ☒ 逃げ遅れがないように避難しましょう。
- ☒ 逃げ遅れた人がいる可能性がある場合は、消防隊に伝えましょう。

コラム

煙に注意して避難しましょう！

● 煙の特徴

煙は高いところからたまり、煙の量が増えると床近くまで下がってきます。

● 煙から逃げるポイント

タオルやハンカチ等で鼻と口を覆い、姿勢を低くして逃げます。この際、煙を吸い込まないように注意しましょう。

消防に通報する

▶ 119番通報のポイント

慌てずに落ち着いて、正しく情報を伝えることが重要です。

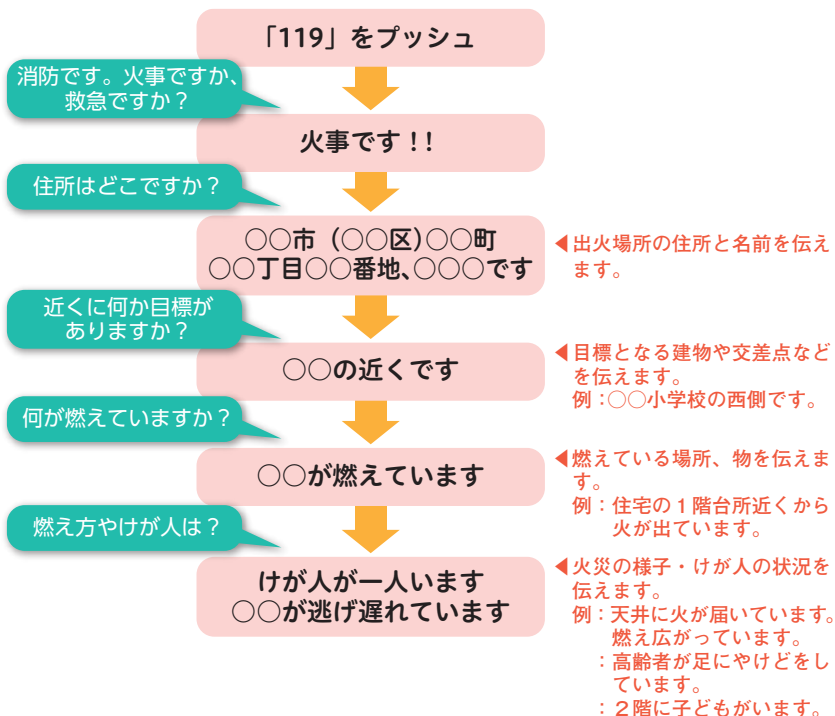
● 固定電話からの通報

電話のそばに自宅住所や目標物を書いたメモを備えておきましょう。

● 携帯電話からの通報

- ・ 携帯電話であることを伝えましょう。
- ・ 電話番号は必ず伝えましょう。
- ・ 状況確認のため、消防本部から連絡がある場合があります。

(((消防に通報すると)))



日頃から家族で話し合っておきましょう

▶ 日頃の準備が大事です

まずは火災を起こさないための環境や習慣づくり、いざというときの心構えを身に付けることが大切です。

火の用心

● 家族で話し合い

火災を起こさないよう、万全の備えをすることが一番ですが、万が一起こしてしまった場合には、家族全員が冷静に行動することが、被害を最小限にとどめるためにも重要です。日頃から消火器の置き場所や使い方についても家族で話し合い、確認しておきましょう。

● 避難方法の確認

家庭内における避難方法を複数決めておきましょう。

● ご近所付き合い

火災などの災害時に支援が必要な方の住まいやその周囲の環境などを把握して、いざというときに助け合うことが大切です。

日頃らご近所と連携した協力体制をつくっておきましょう。



日頃から家族で話し合っておきましょう



住宅防火いのちを守る 10のポイント

4つの習慣・6つの対策



4つの習慣

- ☒ 寝たばこは絶対にしない、させない。
- ☒ ストープの周りに燃えやすいものを置かない。
- ☒ こんろを使うときは火のそばを離れない。
- ☒ コンセントはほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く。



6つの対策

- ☒ 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は安全装置の付いた機器を使用する。
- ☒ 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する。
- ☒ 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防災品を使用する。
- ☒ 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく。
- ☒ お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく。
- ☒ 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う。



4訂版

火災から命を守る

住宅防火読本

令和7年10月発行

編集：一般財団法人 日本防火・防災協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16 日本消防会館8階

電話 03-6280-6903 / FAX 03-6205-7851

URL <https://www.n-bouka.or.jp/>

発行：日本消防検定協会

〒182-0012 東京都調布市深大寺東町4-35-16

電話 0422-44-7471（代表） / FAX 0422-47-3991

URL <https://www.jfeii.or.jp>

印刷・製本：東京法令出版株式会社



4訂版

火災から命を守る

住宅防火読本